

# 平成30年度事業報告

## 1 全般

県隊友会は、県民と自衛隊のかけ橋として、県民の防衛に対する一層の理解と認識の向上に努め、防衛及び防災施策、自衛隊諸活動ならびに予備自衛官等の支援を基本とし、慰霊顕彰事業、及び地域社会の健全な発展に寄与する事業を積極的に推進し、防衛基盤の構築に貢献する。

このため、公益目的事業の定着充実により会活動の活性化を図るとともに、会勢の拡大、収益事業の強化により会基盤の充実を図り、合わせて会員の福祉と親睦のための事業を継続して会の魅力化に努める。の方針のもと会長を核心とした各グループの各事業、特に県主要事業である安全保障フォーラム開催、県及び各地域の防災・慰霊顕彰事業等への積極的な取り組みと、県・支部・会員の一体的な活動により所期の成果を収めた。

## 2 主要事業の成果

### (1) 総務・組織

#### ア 会勢の充実・拡大

##### (ア) 会員の増勢

駐屯地・基地への会勢拡大施策と連携し、部隊行事、部隊長等懇談会等を活用した隊友会制度の周知・理解の促進による即日入会者増に努めるとともに、各支部及び予備自衛官部会・女性部会活動を通じ、未加入OBの勧誘を図り会勢の拡大に努めた。

平成30年度正会員入会者数 86名

内訳：陸：67名、海 16名、空 3名

即日入会者 58名、新規・再入会者 28名

##### (イ) 会員名簿の整理

定期的に即日入会者情報の入手に努め、時機を失することの無いように会員名簿の更新による会勢の最新状況の把握及び議決権行使事務の円滑化に努めた。

##### (ウ) 家族会員の増勢

本年度入会者4名で現在会員数は、100名であり、減少支部及び逝去者を含む退会者が多くなり、29年度に比して7名減少した。引き続き全支部加入率10%(正会員比)を次年度も追求したい。

##### (エ) 予備自衛官部会・女性部会との連携・支援

予備自衛官部会は予備自衛官招集訓練時、女性部会は定期総会等への個別の呼びかけ等により一同に会する機会を作り、懇親・意見交換等の活動の足がかりを作る等会活動活性化の支援に努めた。

##### (オ) 特別会員(一般)の増勢

各支部等に努力して頂いているところであるが、引き続き地域社会の理解と協力を得るために増勢に努めていきたい。

##### (カ) 会員の定着率向上

新入会員の安心・不安解消のため、各支部の特性に応じて創意を尽くした活動をきめ細かく実施すれば必ず成果があることを周知して退会者の抑制に努めたが、未だ成案は無いことか

ら引き続き地道な活動に努めていきたい。

## イ 組織の改編・強化

### (ア) 新支部の結成促進

各地域の自発性を尊重しつつ新支部等の結成及び空白地域会員の既存近隣支部への編入等の情報収集及び調整を進め、本年度は横川支部が新結成された。引き続き、奄美地区新設部隊配置を見据えた奄美地区の活性化及び新支部結成の気運がうかがえる地区(阿久根、湧水地区)を重視していきたい。

### (イ) 役員後継者の育成・登用

支部活動のマンネリ化防止及び活性化を図るため、現職時代の階級意識の払拭を図り、真に熱意と実行力のある曹友会長、先任上級曹長(伍長)経験者登用の啓蒙を図った。引き続き重視していきたい。

## ウ 会務運営の効率化

### (ア) 平成30年度定期総会成果

定期総会を5月20日(日)に総会、防衛講話及び懇親会の3部構成でジェイドガーデンパレスで実施し、各所掌役員及び鹿児島地区協議会の詳細かつ綿密な準備と真摯かつ献身的な取り組みにより整齊円滑に進めることができた。

総会は正会員102名(議決権行使83.9%)、防衛講話(講師:第1航空群司令)は136名(来賓34名を含む。)及び懇親会は143名(来賓41名を含む。)の出席を得、それぞれ所期の目的を達成するとともに所望の成果を得ることができた。

### (イ) 議決権の行使

平成30年度の議決権行使は83.9%(29年度77.6%)であった。

### (ウ) IT化の推進

会員のメールアドレス登録の呼びかけにより、会員相互のアクセスの拡大を図り、会員の参画意識を促すとともに、情報の迅速な伝達及びホームページの最新状況の更新に努め、会員の情報共有の手段として定着しつつある。引き続き支部等からの情報提供を頂きながら掲載内容の充実・更新を図りたい。

### (エ) 規則類の見直し

本部会員規則第10条(会費の納入)の改正に伴う県規則第8条(会費)の改正条項の周知徹底を図るほか、本部の定款・規則類の見直し・改正事項の情報収集に努めた。

## (2) 市民・防衛・広報

### ア 防衛意識の高揚

(ア) 5月20日(日)定期総会時、講師:海上自衛隊第1航空群司令中村敏弘海将補により「今、この時も。～海上自衛隊～」と題し防衛講話を実施した。

(イ) 4月30日(月)、瀬戸内支部は自民党瀬戸内支部・瀬戸内町自衛隊家族会と共に参議院議員「宇都隆史先生」による防衛講演会を瀬戸内町物産館にて開催した。

(ウ) 10月20日(土)鹿児島市勤労者交流センター多目的ホールにおいて、「平成30年度安全保障フォーラム in 鹿児島」を、郷友会、自衛隊家族会と共に3団体の共催で開催した。講師には元航空幕僚長外薮健一朗氏(鹿児島市喜入出身)を招き、「日本の安全保障三つの課題」を演題にして講演会を実施した。主催者側からの参加はもとより一般県民から多くの聴講者があり、約

200人の参加となった。

- (エ) 11月17日～18日、大分県隊友会が担当した「平成30年度九州・沖縄ブロック研修会」に村山会長以下27名が参加した。初日は、研修会が実施され「家族支援活動の取り組みについて」大分、熊本県から発表があった。鹿児島県は、発表こそなかったが九州執行役から細部にわたり良くまとめられてあったと高い評価を得た。引き続きセミナーでは、元海上幕僚長の古庄幸一氏による「明治150年海洋立国日本の安全保障」と題しての講話を聴講した。引き続き意見交換会が実施され他県と親睦を深めた。2日目は、陸自玖珠駐屯地で西部方面戦車隊の研修を行った。

イ 自衛隊および地方公共団体の防災・国民保護施策等に対する協力

(ア) 隊友会自衛隊情報ネットワークの維持のための自主訓練

10月25日、国分、隼人支部は大規模災害時の現地住民情報の提供に関する情報伝達の自主訓練を実施した。平成22年に、第12普通科連隊と合意書を締結してから初めての訓練であったが、初回としては十分な成果があった。来年度以降、今回の成果を反映した訓練を他支部にも広げていく予定である。オブザーバーとして12普連の2科長が参加した。

(イ) 国民保護法事態及び大規模災害発生時における自治体との協力協定

薩摩川内市と薩摩川内支部は、平成31年4月18日に協定を締結した。

(ウ) 各市町村役場への防災担当官(危機管理官)のOB配置

新規に、4月に鹿児島市、8月に錦江町へ、交代者採用が4月に霧島市へ実現。

現在、鹿児島県、鹿児島市、始良市、霧島市、垂水市、薩摩川内市、曾於市、南大隅町、錦江町の9名。

(エ) 自治体等の行う総合防災訓練等への参加

a 鹿児島県総合防災訓練(指宿市):30年5月27日(日)参加

指宿市で開催された鹿児島県防災訓練に、村山県会長と指宿支部、顛娃支部、鹿児島地区協議会から合わせて14名が参加した。今年は種子島東方沖で大地震が発生及び記録的な大雨も降る想定で実施された。陸、海、空自衛隊をはじめ警察や消防など79機関1500人が参加、航空機、艦艇等も多数行動する大規模な総合防災訓練であった。隊友会は、ヘリポート安全確保(6名)、合同災害対策訓練場の交通統制(4名)、企画統制部状況付与管理(3名)を担当した。村山会長は、県災害対策本部長(県知事)に随行して、各種訓練を視察した。

b 平成30年度桜島火山爆発総合防災訓練(図上) : 30年11月6日(火)参加

訓練(図上)は、鹿児島県庁及び鹿児島市役所において、県、鹿児島市他4市や自衛隊、消防、警察など27機関約200人が参加して行われた。鹿児島県隊友会は、例年に続き村山会長以下13名が評価班及び状況付与班として参加した。噴火警戒レベル5(避難)に引き上げられた後、山服で大規模な噴火が起き、垂水方向へ噴石、大量な降灰があるという想定で訓練が実施された。今回は、避難者の市をまたぐ避難や地震発生による複合災害対処に加え、噴火規模縮小後の道路疎開や避難所支援等の応急復旧までを演練項目とされた。状況付与班は、各機関へ115件の状況を電話・手渡し等で付与、評価班は、訓練チェックリストにより評価し、企画統制部として訓練の円滑な遂行に貢献した。最後に評価班長の村山会長が「図上訓練は6回目であり、訓練要領・内容が深化してきている。次の中期計画を策定する段階である。訓練途中で災害対策本部会議を開催したのは特に評価できる点である。鹿児島県は、大正大噴火を経験しているので、リアリティをもって対策していかななくてはならない。」旨の講評を

述べて訓練が終了した。

- c 平成30年度鹿児島県国民保護共同図上訓練 : 30年12月26日(水)参加  
訓練は、鹿児島県庁及び鹿児島市役所において、県、鹿児島市や自衛隊、警察、消防など24機関約200人が参加して行われた。鹿児島県隊友会は、村山会長以下9名が、県と市に分かれて主に企画統制部のコントローラーとして参加した。

鹿児島アリーナで著名な歌手のコンサート開始前に爆破、鹿児島中央駅地下通路で化学剤が散布され多数の死傷者が発生、さらに桜島フェリーターミナルに爆弾所持した犯行グループが立てこもったという想定で実施された。これらの連続・複合した事案に対して、プレーヤーとして参加した各機関の対応行動を演練した。今回は、県知事、鹿児島市長をはじめ各部長・局長が本番さながら「緊急対処自体対策本部会議」臨み、状況に入っていた。隊友会の参加者はコントローラーとして状況付与を電話及び手渡し等で各機関に対して実施して、訓練の円滑な遂行に貢献した。

訓練要領・内容は、年々深化しており、プレーヤーのレベルも昨年と比べてかなり向上していた。これは、隊友会の会員である県危機管理課の小田参事及び市危機管理課の西田専門官による指導の効果が表れたものと思われる。現在、県下の9の地方自治体へ危機管理担当として自衛官OBが配置されているが、県全体の危機対応能力の向上ためには更にその数が増えていけばと今回の訓練に参加して思った次第である。

#### ウ 地域社会の健全な発展に寄与する各種協力

##### 県内公益目的事業の推進

青少年の健全育成、公園、慰霊碑・戦没者墓地等の清掃、各種慰霊祭へ参加した。

- ・出水特攻慰霊碑清掃(出水支部):4月7日、9月25日
- ・国分基地特攻隊員戦没者慰霊碑清掃(国分支部):4月14日、8月18日
- ・始良市山田凱旋門(慰霊碑群)清掃(始良支部):5月11日
- ・鹿屋市花崗公園戦没者慰霊碑清掃(鹿屋(陸空)支部):5月19日
- ・始良市戦没者慰霊塔清掃(始良支部):8月5日、10月27日
- ・喜入町戦没者慰霊碑清掃(喜入支部):8月5日
- ・さつま町内の慰霊塔(4カ所)清掃(さつま支部):8月5日
- ・横川町戦没者慰霊碑清掃(横川支部):8月5日、12月8日
- ・瀬戸内町慰霊塔及び供養塔清掃(瀬戸内支部):8月5日
- ・鹿児島戦没者墓地清掃(鹿児島地区協議会):10月13日

#### エ 広報活動

県隊友会のホームページを毎月更新充実するとともに、隊友新聞に積極的に投稿するとともに広報紙「隊友さつま」を年4回発刊した

45号(4月15日)・46号(7月15日)・47号(10月15日)・48号(1月15日)

#### オ 憲法改正運動

10月4日、宝山ホールにて、美しい日本の憲法をつくる鹿児島県民の会主催の「強く、美しく、輝け日本-今こそ憲法改正の実現を-」と題した櫻井よしこ氏の講演が行われた。県隊友会もこれに協力し、また、会員の多くが聴講した。

(3) 部隊・協力諸団体・親睦

ア 部隊等支援

(ア) 演習訓練・行事・国際貢献活動・災害派遣等の協力支援

a 陸 自

- (a) 観桜会 (国分 4/1 H31.3/31) 参加 会長、地元支部等
- (b) 新隊員入隊式(国分 4/7・8)、修了式 (国分 6/29)  
会長以下県役員、近隣支部長・役員が参加し激励・祝意
- (c) 創立記念行事 川内(4/1)、北熊本(4/22)、健軍(9/30)、国分(11/25)※参列  
会長、地元支部等 ※：広告協力
- (d) 夏祭り (国分 8/8) 参加 会長、地元支部等
- (e) 西日本豪雨災害派遣部隊慰労 (国分 8/6、川内 8/7) 焼酎「隊友」贈呈
- (f) 第 12 戦闘団訓練検閲出陣式 (国分・川内 9/3) 参加激励  
会長、近隣支部長、警備隊区支部長等が本部・中隊長へ焼酎「隊友」贈呈
- (g) 第 8 師団音楽隊演奏会 (鹿児島市 9/22) 参加 会長、地元支部等
- (h) 観月会 (川内 10/2) 県役員、支部長等参加
- (i) 12 普連 4 中隊行進訓練 (始良支部 10/25) 激励 始良支部長・会員
- (j) 成人式 (川内 1/8 国分 1/10) 会長等
- (k) 武道・武装走競技会 (国分・川内 1・2 月)
- (l) 12 普連本管・2・4・重迫中隊長離着任行事参列 (国分 3/20、3/25) 会員
- (m) 市民と自衛隊のつどい(国分 3/30) 副会長、地元会員等
- (n) 奄美駐屯地開設行事 (奄美 3/31) 会長、会員

b 海 自

- (a) エアメモリアル鹿屋 (鹿屋 4/30) 参列
- (b) 鹿屋航空基地創立記念行事、航空ショー (鹿屋 12/1) 参列
- (c) 海自入港歓迎 地元会員が出迎え歓迎  
掃海艇「うくしま」(4/28・29 志布志)、多用途支援艦「あまくさ」(5/27 鹿児島)  
掃海艇「ちちじま」(6/5 鹿児島)、掃海艇「ししじま」(6/9 鹿児島)  
水中処分母船 6 号(6/19・20 与論)、輸送艇 1 号(7/16 志布志)  
護衛艦「さわぎり」(7/28・29 鹿児島)、護衛艦「やまぎり」(9/1 鹿児島)  
掃海艇「とよしま」(10/7 垂水)、掃海母艦「うらが」(10/20 鹿児島)  
掃海艇「くろしま」(11/18～12/2 与論)、ミサイル艇「しらたか」(12/9 鹿児島)  
護衛艦「じんつう」(2/10・11 志布志)
- (d) 観桜会 (鹿屋 3/25) 会長等参加

c 空 自

- (a) 西部航空方面隊音楽隊演奏会 (10/21 財部、10/22 出水)
- (b) 新田原基地エアフェスタ研修(12/2 新田原)

d 地 本

- (a) 自衛隊みなと祭り(7/22・23 鹿児島本港) 地元、近傍支部会員が参加
- (b) 予備自衛官招集訓練時激励(タカ贈呈)及び頭彰(ハッジ)、楯を贈呈)

射撃優秀者楯（43点→45点(H30実績で30人以内の見積）に変更）

(c) 殉職隊員慰霊祭(11/3)を相互協力

(d) 地本後援会総会参加（6/23 会長）

(イ) 部隊等との交流の拡充

a 意見交換会の実施

(a) 鹿児島地方協力本部(4/19)、国分駐屯地(8/6)、川内駐屯地(12/7) 鹿屋基地(3/15) 隊友会活動の説明、隊友会との連携・協力の深化及び入会促進を図った。

また、家族支援施策について隊員・家族への普及を依頼した。

(b) 鹿屋航空基地川村司令への隊友会活動説明(10/11) 会長、平田副会長

b 隊員との交流

(a) 薩摩川内支部会員と川内駐屯地主要指揮官幕僚等との懇親会（12/7 約 60 名）

(b) 始良支部会員と始良市在住自衛官(6名)との懇親会(12/8 約 40 名)

副市長、特別会員（県議、市議）も参加

(c) 伊佐支部会員と 12 普連重迫中隊隊員との新年月例会での交流(1/12)

c 賛助会員に対し、各駐屯地・基地内の厚生センターに設置してある「隊友会 PR コーナー」を活用して隊友会活動の現況等を広報

(ウ) 募集・援護等の支援

a 自衛隊協力者会同へ関係支部長等参加

徳之島(5/13)、大隅(6/1)、薩摩川内(6/1)、鹿児島(6/17)、奄美大島(6/22)、鹿屋(6/28)、国分(7/1)、知覧(7/8) 募集援護の現況把握、協力要領、懇親

b 地区の入隊激励会への参加、支部総会への募集担当者の招致・説明受け等を実施している支部がある。他の支部においても積極的に実施されたい。

c 募集協力

(a) 成果：4 件

南さつま支部 1(入隊)、出水支部 1(入隊)、喜入支部 1(入隊)、さつま支部 1(入隊)

(b) 各支部は募集成果について逐次本部へ報告されたい。表彰の対象に付加

d 援護協力 薩摩川内支部 1 件(就職)

(エ) その他の自衛隊活動支援

a 体育学校濱田尚里選手への支援

(a) 勝利会（後援会）として支援（激励金）

(b) 祝勝会(12/24 京セラホテル) 会長、国分支部等

b 全九州銃剣道・短剣道大会激励(2/10) 会長等

c 家族支援協力

(a) 「大規模災害等における派遣隊員の留守家族支援に関する協定」を締結 8/8

(b) 国分・川内業務隊と連携し支援のための名簿作成 1 月末概成

(c) 3 月末に完成し、4 月業務隊が各支部に配布（作業用の名簿は回収）

今後は、年 1 回上半期に更新予定（要領は別示）

イ 予備自衛官等の支援

(ア) 地方協力本部・援護課と密接に連携し、国分駐屯地、川内駐屯地、鹿屋基地、地本の招集訓練において、体力検定・射撃訓練優秀者へ記念品提供、並びに参加者全員に

対する記念タオル配布を実施するとともに、懇談会時に隊友会活動の説明等を実施した。  
(会長、副会長、理事が対応)

- a 国分駐屯地：# 1 7/13 78名、# 2 9/28 68名、# 3 11/23 68名  
# 4 1/12 60名、# 5 2/2 77名、# 6 3/8 51名
- b 川内駐屯地：# 1 6/23 32名、# 2 9/6 31名
- c 鹿屋基地：10/9 9名
- d 地本1日訓練：# 1 4/22 4名、# 2 7/8 6名、# 3 10/21 4名  
# 4 1/20 16名

(イ) 懇談会では保険会社の協力を得て、隊友会団体生命保険等の説明も実施し、予備自衛官福祉支援制度の普及を図った。

(ウ) 上記活動等により資料請求21名 入会した者 現在 0名

#### ウ 自衛隊殉職者及び戦没者等の慰霊顕彰・援助

##### (ア) 殉職者慰霊

- a 鹿児島県隊友会主催 殉職隊員慰霊祭(11/3 鹿児島県護国神社)  
21遺族27名、地方協力本部の支援・協力を受け、地方協力本部長・各駐屯地・基地の司令・部隊長)ならびに遺族、鹿児島地区協議会等から参加、県出身殉職者に対し厳かに弔意を表した。
- b 各駐屯地・基地(健軍：9/29、国分：11/24、鹿屋：11/16)で行われた追悼式に会長等が参加した。

##### (イ) 戦没者慰霊

###### a 慰霊祭等参列 会長、地元支部

万世特攻慰霊碑慰霊祭(4/8)、護国神社春季大祭(4/13)、出水特攻慰霊祭(4/16)、国分・溝辺特攻戦没者慰霊祭(4/22)、知覧特攻基地戦没者慰霊祭(5/3)、沖縄戦没者慰霊祭(6/18)、大東亜戦争戦没者慰霊祭(8/15)、護国神社秋季大祭(10/13)、県主催鹿児島県戦没者追悼式(10/23)、比島戦没者慰霊祭(3/27)、鹿児島戦没者墓地慰霊祭(3/31)等

b 各支部単位で地域の慰霊碑等の清掃活動の実施及び慰霊祭等に参加した。

#### エ 防衛協力諸団体等との連携

(ア) 東郷元帥記念祭(5/13) 会長以下参加及び行事支援

##### (イ) 県防衛協会との連携

a 防衛協会総会・懇親会に会長等参加

b 県防衛協会主催の防衛協力諸団体合同賀詞交換会(1/20 城山ホテル)  
会長以下多数の会員が参加 特別会員の議員を除くと約50名

(ウ) 郷友会防衛講演会(6/17 キャンピル 馬毛島問題 市来・中原氏が講話)  
会長、会員数名

(エ) 鹿児島県自衛隊家族会・郷友会・水交会・偕行会主催の総会等行事に会長等が参加し相互理解親睦を図った。

#### オ 親睦・福祉厚生

##### (ア) ディフェンスさつま親睦ゴルフ大会

(10/27 グリーンヒルカントリークラブ 市比野コース 薩摩川内支部担当)

a 参加者 45名(隊友会5名、鹿屋OB10名、国分自3名、川内自9名、

地本 4 名、川内地区関係者 7 名)

b 成績

優勝:徳永さん(川内防衛協会)、2位:大坪さん(川内自)、3位:中村さん(川内自)  
4位:田島さん(隊悠会)5位:河野さん(隊悠会)

(イ) グラウンドゴルフ大会 (11/23 国分海浜公園 国分支部担当、隼人支部協力)

a 13(14)個支部 44(39)個チーム、222(210)名が参加

b 成績

団体 優勝:国分支部Fチーム (184点)

準優勝:さつま支部Aチーム (191点)

第3位:伊集院支部チーム (194点)

個人 優勝:西 精三郎(国分支部) (29点)

準優勝:永富 訓(伊佐支部) (29点)

第3位:岩下秀明(さつま支部) (31点)

c 担当支部の支援を得て年々参加者が増加し主要事業に成長

(ウ) 囲碁大会 (2/10 霧島市国分総合福祉センター、国分支部担当・隼人支部支援)

隼人支部、地元老人クラブの協力も得て第9回大会を開催し、46名が参加、和気藹々の中、熱戦を繰り広げた。

成績:優勝 AGp 古川政弘(国分支部) BGp 平原幸満(国分支部)

敢闘賞 春田博明(喜入支部)

(エ) 支部総会・懇親会参加及び支部を訪問・懇談

a 総会参加 いちき串木野支部 (5/27)、国分・隼人支部合同 (6/3) 会長

b 支部発会式 横川支部 (8/25) 宮ノ原副会長

(オ) 福祉事業

a 遺族支援及び災害被災見舞(3/13 現在)

逝去会員 28名(前年度逝去者 2名を含む。)への弔電・香典、葬儀参列

この他に殉職された前原1曹(水陸機動団(相浦)(知覧出身))に対しても実施

b 任期満了退職隊員に対し隊友会及び保険制度を説明し入会を案内

(国分 2/20 12名、川内 3/11 8名) 資料請求 3名有 定例化を調整

c 霧島ふるさとおたすけ隊 6070

国分支部を中心に活動中 登録は 40名

カ その他支部等支援

横川支部の幟を配布した。

(4) 財務・事務局・監事

ア 本部への報告及び事業参加

定期及び随時報告を示された期日までに行った。尚、各支部からの報告に基づき、ボランティア保険手続き及び公益事業実施前報告書を送付した。

イ 各事業担任業務

総会招待者案内等、各会議準備(資料作成等を含む。)を各支部及び各グループの支援を得て整齐と行った。



#### ウ 予算の執行実績

年度事業予算計画に基づき、適正・効率的に運用するとともに、会計事務についても隊友会会計処理規定に基づき適正に実施。

#### エ 収益事業等

(ア) 焼酎天の輝き「隊友」、「鯉一番せんじ」、「島原手延べソーメン・うどん」の販売

新聞「隊友さつま」への広告掲載、広告紙を新聞折り込配布する等して、販売成果向上を図った。

(イ) 「自販機設置場所の情報提供

情報提供なし。

(ウ) 隊友さつま広告掲載及び広告紙頒布依頼企業開拓

隊友さつまへの広告掲載は、4月新聞に4件、7月新聞に3件、10月新聞に2件と鹿児島地区協議会、国支部が協力した。広告紙頒布は、5件(メディアポリス、丸大ハム(夏・冬ギフト)、本部事業(2件))を、各月新聞に折り込み配布した。